

産業機械部門：大阪市建設局からポンプ設備工事を受注
～千島下水処理場の返送汚泥ポンプ設備を更新～

当社（本社：東京都千代田区、社長：中戸川 稔）グループの中核事業会社で、産業機械部門を担う古河産機システムズ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：岩間 和義）は、このほど、大阪市建設局より千島下水処理場返送汚泥ポンプ外設備工事（その 1－1）を受注しました。

本工事は、千島下水処理場に設置する返送汚泥ポンプ外設備の設計・製作・据付を行うものです。古河産機システムズは、返送汚泥ポンプ 4 台他を新たに納入し、既存のポンプ設備の更新工事を担います。

古河産機システムズは、今後も、ポンプ設備の更新を通じて、お客さまの課題解決を図り、高効率による省エネ、長寿命化によるランニングコスト低減に貢献していきます。



千島下水処理場ポンプ設備イメージ

工事概要

名称	千島下水処理場返送汚泥ポンプ外設備工事（その 1－1）
施工場所	大阪府大阪市大正区小林東 2-5-59
発注機関	大阪市建設局
請負金額	858,000,000 円
工期	2025 年 3 月 18 日～2027 年 6 月 30 日
納入台数	返送汚泥ポンプ(φ300) 4 台他

ポンプ事業について

古河産機システムズのポンプ事業は、当社グループの発展の礎となった足尾銅山で自家消費用として製造したことに始まり、1920 年代（大正時代）には外販を開始しました。その後、1954（昭和 29）年に一般市販を開始し、鉱山・製鉄・製紙・土木・上下水道・公害関連などの各分野で多く使用されました。耐摩耗・耐食性が評価され、現在では、全国各地の工場をはじめ、浄水場・下水処理場などの公共インフラ、東京湾横断道路（アクアライン）などの泥水シールド工事現場など幅広い分野で納入しています。古河産機システムズの下水処理場向けの汚泥ポンプは現在、全国約 2,200 箇所、約 12,000 台以上が稼働（当社推定）しており、国内シェアは約 60%を誇っています。

（参考）千島下水処理場について

千島下水処理場の敷地面積は 36,595 平方メートル、下水処理の対象となる区域は、大阪市大正区の全域（船町除く）で、その面積は 736 ヘクタールとなります（大阪市ホームページより引用）。

【補足資料】

■会社概要

【古河機械金属株式会社】(東京証券取引所プライム市場 証券コード 5715)

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目 6 番 4 号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：中戸川 稔

事業内容：鉱山開発で培った技術を受け継ぎ、現在では機械事業 3 部門（産業機械部門、ロックドリル部門、ユニット部門）と素材事業 3 部門（金属部門、電子部門、化成品部門）を展開しています。

創業：1875 年（明治 8 年）8 月

設立：1918 年（大正 7 年）4 月

資本金：282 億 818 万円

従業員数：〈連結〉2,908 人 〈単独〉205 人 [2025 年 3 月 31 日現在]

WEB サイト：<https://www.furukawakk.co.jp/>

【古河産機システムズ株式会社】（古河機械金属株式会社 100%子会社）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目 6 番 4 号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：岩間 和義

事業内容：足尾銅山の鉱山機械修理技術をルーツに、現在はスラリーポンプ、汚泥ポンプ、破砕機、スクリーンのほか、鋼橋梁やベルトコンベヤ等の設計・製造・据付工事・運転管理を行っています。

設立：2004（平成 16）年 5 月

資本金：3 億円

従業員数：448 名[2025 年 3 月 31 日現在]

WEB サイト：<https://www.furukawa-sanki.co.jp/>